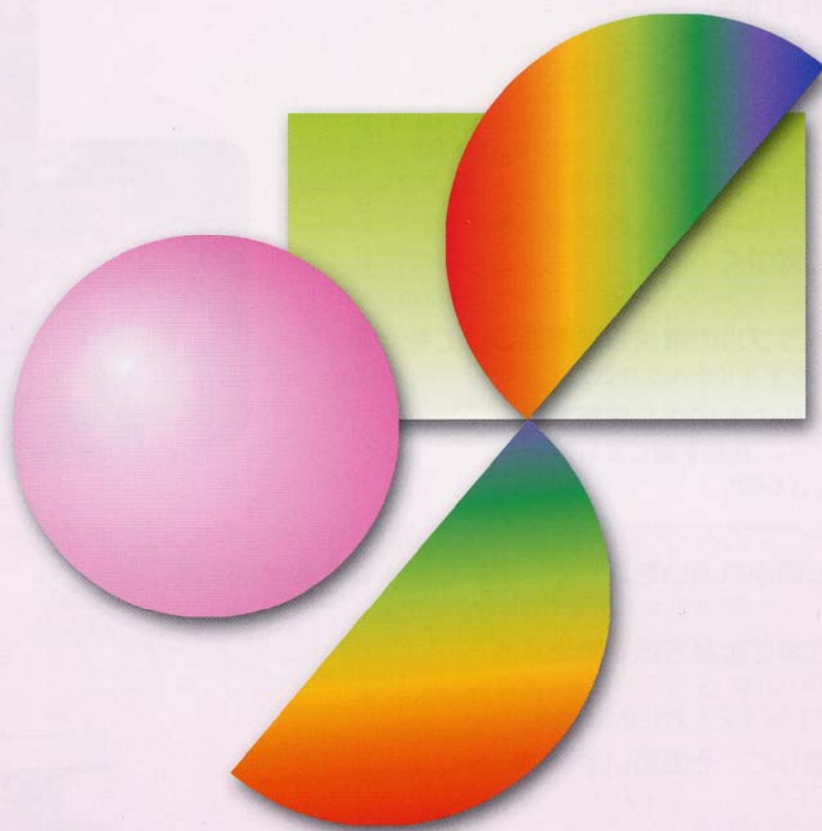


人権教育学習プログラム

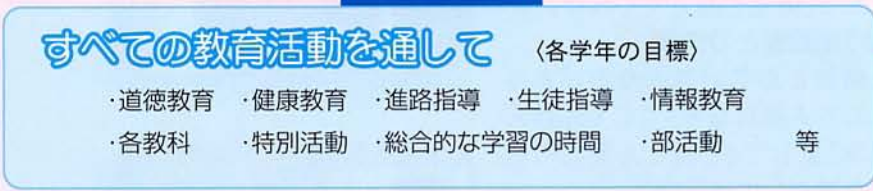
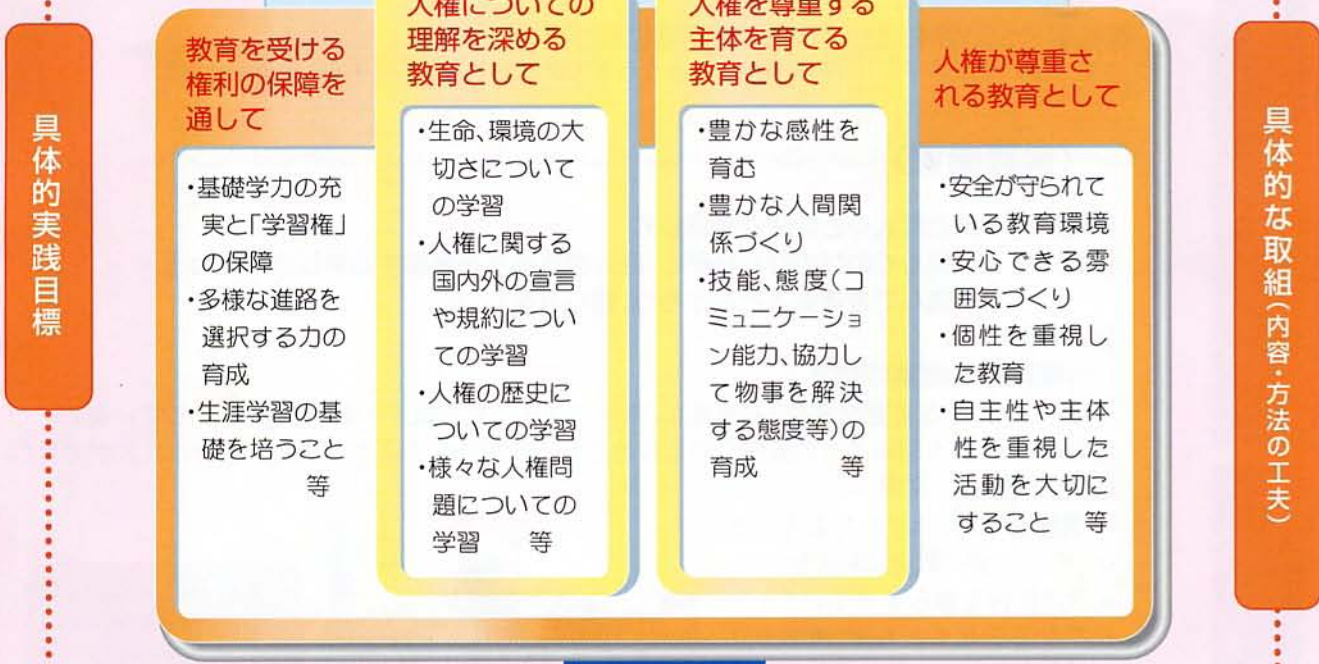


奈良県教育委員会

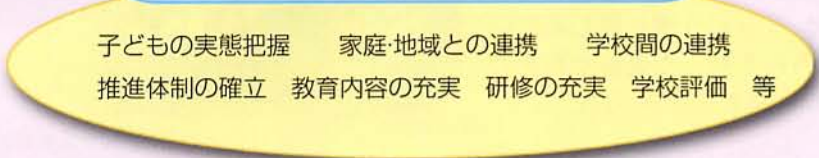
人権教育の全体構想イメージ図



人権教育の基本方向 (人権教育の四つの側面)



各学校における人権課題の把握



人権教育で身につけたい知識・技能・態度の例

知識

- ① 基本的人権について理解する。
- ② 地域の障害者や高齢者等との交流を通して、互いの人権を尊重し合うことの大切さを知る。
- ③ 同和問題、障害者問題、在日外国人問題など様々な人権問題について歴史や現状を知るとともに、課題解決に向けた取組を学び、課題を克服するための方法を考える。
- ④ いじめ等、身近な人権侵害に気づき、人権を守ることの大切さを知る。
- ⑤ 反戦平和や環境汚染について考える。
- ⑥ 集団生活を通して、自分の役割と責任について理解する。

「人権についての理解を深める教育」を中心に

技能

- ① 自分の気持ちや思いを適切に表現できる。
- ② 友だちの個性やよさを感じとることができる。
- ③ 集団生活に積極的に参加し、協力して行動できる。
- ④ 生活の中にある課題や対立を互いに協力して解決できる。
- ⑤ 他者の心情や意見を大切にしながら、自分の思いを主張できる。
- ⑥ 物事を多面的にとらえ的確な判断ができる。
- ⑦ 差別や不合理に出会ったとき、異議申し立てができる。

「人権を尊重する主体を育てる教育」を中心に

態度

- ① 自分のよさや個性を伸ばそうとする。
- ② 友だちの個性やよさを認めようとする。
- ③ 集団生活に積極的に参加し、協力して生活を向上させようとする。
- ④ 生活の中にある課題や対立を互いに協力して生活を向上させようとする。
- ⑤ 自ら考え、自ら判断し、問題を解決していこうとする。
- ⑥ 他者の心情や意見を受け止め、相手の状況などを踏まえて自己表現していこうとする。
- ⑦ 暮らしの中にある差別を許さず、人権を大切にしようとする。
- ⑧ ボランティア等の活動に積極的に参加し、豊かで活力ある社会を支えていこうするとともに、自らも成長しようとする。

P 3～P 7の凡例

・〈 〉は、単元名や学習活動内容を示す。「 」は、県内で使用されている教科書等の教材名を示す。

・国－国語 生－生活 社－社会 算－算数 数－数学 理－理科 音－音楽 外－外国語 図－図画工作
美－美術 家－家庭 技－技術 道－道徳 保－保健 体－体育 特－特別活動 総－総合的な学習の時間

・(ひ低)－ひびき合う心低学年 (ひ中)－ひびき合う心中学年 (ひ高)－ひびき合う心高学年
(響き中)－響き合う心中学校 (心低)－心のノート1・2年 (心中)－心のノート3・4年
(心高)－心のノート5・6年 (心)－心のノート中学校 (な低)－「なかま」小学校低学年
(な中)－「なかま」小学校中学年 (な高)－「なかま」小学校高学年 (中学な)－中学校用「なかま」
(高校な)－高等学校用「なかま」

なお、(な中) (心中)については、「小学校(低学年)」と「小学校(高学年)」に振り分けている。

・「中学校・高等学校」については、主に中学校を中心に掲載している。

※これらは、一例として示したものです。

保育所・幼稚園

人権についての理解を深める教育として

- 自然や地域とのふれあいを通して
 - ・なかまとともに遊びを楽しむ
 - ・さまざまな文化や仕事があることに気づく

〈お祭りごっこ〉 〈木の葉や実あそび〉 〈クリーン作戦〉 〈川あそび〉 〈お正月あそび〉 〈水・砂あそび〉
 〈体ほぐし・心ほぐし〉 〈バルーン〉 〈じゃんけん列車〉 〈わらべうた・手あそび〉 〈草花あそび〉
- 身近な人々とのふれあいを通して
 - ・お互いのよさやちがいに気づく
 - ・話したり、聞いたりする楽しさを味わう
 - ・家庭や家族の一員であることを実感する

〈中学生の職場体験学習や保育実習を通しての交流〉 〈保育所・幼稚園の交流〉 〈福祉センター訪問〉
 〈小学校との交流〉 〈高齢者とのふれあい〉 〈クリーンセンター見学〉 〈働く人に感謝のプレゼント〉
- 健康な生活リズム、生活習慣を身につけ、健康で安全な生活を送る

〈手洗い、うがい、歯磨きをする〉 〈遊んだ後は、きちんと片付けて生活の場を整える〉
 〈身のまわりの始末を自分でする〉 〈誰とでも気持ちよくあいさつをする〉
- さまざまな体験を通して自分が大切にされていることに気づく

〈地域の人々、高齢者、在宅児や未就園児との交流を通して〉
- 音楽、造形、言語等のさまざまな表現活動に出会う

〈歌に合わせて手話をする〉 〈リズムに合わせて表現あそびをする〉
 〈体を動かして遊ぶ〉 〈話を聞いたり劇あそびをしたりする〉 〈描いたりつくったりして遊ぶ〉
- 動植物の世話等を通して、命の大切さに気づく

〈さつまいもを育てる〉 〈花を育てる〉 〈うさぎの世話をする〉 〈ザリガニの世話をする〉

〈実践事例〉

【活動名】 身近な人々との交流を通して

【ねらい】 ・ 明るくのびのびと行動し、自分の気持ちを表現する楽しさを味わう。
・ 進んで身近な人とかわり、親しみをもつ。

【内容】

(1) 保育所・幼稚園の交流

毎年8月に「5歳児交流会」を実施し、戦争に関する話や絵本の読み聞かせをしている。園児たちは、鶴を折ることの意味や同じ目的をもって活動することの大切さを知ることができた。

(2) 小学校との交流

園児たちは、自分たちより大きな小学生の姿や校舎に刺激を受け、入学に期待を膨らませていた。6年生の子どもたちが、演奏やクイズをしたり、一緒に鶴を折ったりして、園児を迎えてくれた。

(3) 高齢者との交流

園児とおじいさんやおばあさんの二人組になり “じゃんけん列車”をして、どんどん友だち列車を増やしていった。

最初は恥ずかしがって小さな声でしか答えられなかった子どもたちだったが、ボール送りのときには、すっかり慣れ親しんでいた。空き缶を使った楽器や風車の作り方も教えてもらった。



「こんな難しい鶴、上手に折るねんな。」
「練習してできるようになってん。」
「小学校へ来るの楽しみか。」
「うん、楽しみ。早く行きたいな。」



「ほら、できたで。吹いてみ。」
「あれっ、鳴らへんで、なんで。」
「ストロー、もうちょっと曲げてみるわな。」
「鳴った、鳴った。」

〈平成16(2004)年度「就学前教育の充実をめざして」より〉

人権を尊重する主体を育てる教育として

小学校(低学年)

○命の尊さを学ぶ

国「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 生「ぐんぐんそだて」〈生きもの大すき〉
道「いのちのつながり」おならのはなし」(な低)
「生きているって、うれしいな」(ひ低)「大切な『いのち』」(ひ中)
特「千羽鶴を折ろう」自分のからだは自分のもの」(な中)

○自分の生活や成長には、家族や多くの人の支援があることを理解する

国「おかあさんがつかれている」(な低)
生「自分でできるようになったよ」〈大きくなったよ〉
道「かぞくが大すき」(心低)「かぞくって、いいな」(ひ低)

○地域の仕事や人々の生活について学ぶ

国「ごみとりの仕事に行った」(な中)「わたしの見学ノート」
生「地域の人と出会う～名人さんと」 社「歩いてみようわたしたちの町」(な中)
算「町しらべ～表やグラフであらわそう」



くつ洗いをしよう

○高齢者や障害のある人など、さまざまな人々とともに暮らしていることに気づく

国「もうどう犬の訓練」わたしと小鳥とすずと」
生「公共施設の点字表示」おじいちゃん」(な低)「何であかんの」(な中)
社「わたしたちのまちと人びとのくらし」
特「がっこうのまわりで」(な低)
総「おばあさんのおくりもの」ふれあい」(な中)
音「ともだちになるために」(な低)
道「さきちゃんとボクとイチゴ」(な低)
「大すき！おばあちゃん、おじいちゃん」(ひ低)

はだの色ってどんな色？



○さまざまな国の文化や生活にふれる

国「せかいのかくれんぼ」 生「であえるといいね」(な低)
生・音「いろいろな国～ことば・服・遊び・食べ物・歌」 音「アプロ」(な低)

○さまざまな体験を通して、一人一人のちがいや共通する願いの存在に気づく

総「施設の人と出会う」

○友達との間で起こるトラブルの解決方法等について考える

特「あさのきょうしつ」「やすみじかん」(な低)

○集団生活におけるルールの大切さを理解する

生・特・総・体・道「遊びやゲーム、生活を通して」
道「みんなのものだもん」(心低)



さまざまな国のことを知ろう

○自然、地域、芸術等とのふれあいを通して、それらのよさや豊かさを感じる

生「生きものと友だち」 図「身近な動物を描こう」

○自分の思いや願いをさまざまな方法で表現する

道「さるとかに」(な低)「いっぱい友だち！もっと友だち！」(ひ中)
特「なんといえがいいでしょう」「かお」(な低)

○人々とのふれあいを通して、その思いや願いを受け止めようとする

生「むかしの遊びを楽しもう」
道「思いやりの心をさがそう」(心中)
総「施設の人と出会う」

○家庭や集団の一員として、よりよい集団づくりに積極的にかかわる態度を身につける

道「ほくもしたい」「ほくのかぞく」(な低)「ともだちといっしょ」(心低)
「はじめよう！小さなボランティア」(ひ中)「人間コピー」(な中)
特「きいてきいて」(な低)



自分の思いや願いを表現しよう

○自分たちの合意のもとに集団生活のルールを決めようとする態度を身につける

生・特・総・体・道「遊びやゲーム、生活を通して」

○一人一人の自尊感情を高める

道「ほめほめぶくろ」「かみひこうき」(な低)「えがおが、いっぱい！」(ひ低)
特「みんなで作ってみよう」(な低)「いろんなわたし」(な中)

○基本的人権について学ぶ

国「マザー・テレサ」「みんなで生きる町」 社「わたしたちの暮らしと憲法」

○地域の障害者や高齢者等との交流を通して、互いの人権を尊重し合うことの大切さを知る

総「福祉センター訪問」 音「民謡やわらべうたに親しもう」
家「地域の人々との協力・助け合い」

○同和問題、障害者問題、在日外国人問題等のさまざまな人権問題について

国「『伝え合う』ということ」 総「識字に学ぶ」
社「アイヌの人々」〈点字の紹介〉〈竜安寺・銀閣寺の石庭～身分制度～解体新書～解放令～水平社〉
音「いつも太陽のように」(な高) 道「本当の名前をよんでもらって」「病気じゃないんだけどなあ」(な中)
道「三人の夢」「人の世に熱あれ 人間に光あれ」「働く女性・男性」
「おばあちゃんのお風呂」「『光』～なんでやろ～」(な高)
特「女の仕事、男の仕事」(な中)「わたしの友だちのこと」(な高)

○いじめ等、身近な人権侵害に気づき、人権を守ることの大切さを知る

社「わたしたちの暮らしと憲法」
道・特「人権作文を活用して」
道「鳥ひきおに」(な中)
道・社「『権利』って何だろう？」(な高)

○反戦平和や環境汚染等について考える

国「森林のおくりもの」
「平和のとりでを築く」
「人と『もの』とのつき合い方」
社「戦争と人々の暮らし」〈世界のなかの日本〉〈国土と環境〉
「ヒロシマの心をみんなの心へ」(な高)
算「環境問題～割合や比などを使って考えよう」
理「わたしたちの生活と自然環境」
総「平和活動に取り組んでいる人々」
道「青い青い海の島で」(な中)



仕事について考えよう

○集団生活を通し、協力して物事を成し遂げることの楽しさを知るとともに、自分の役割と責任について理解する

特・道・社「あったらいいな・なくては困る」(な高) 道「自由ってなんだろう」(心高)
音「合奏や合唱など心をつなげて音楽活動をする楽しさを味わう」
体「運動やスポーツ活動を通して公平な態度やお互いに協力する態度を養う」



交流活動をしよう

○自分の個性やよさを伸ばそうとするとともに、友達の個性やよさを認めようとする

国「だいじょうぶ だいじょうぶ」 図「感じたことや想像したことをもとに自分らしい表現をしよう」
道「よりそうこと、わかり合うことから」(心高) 道・特「とっても大切なわたし」(ひ高)

○自分の役割と責任について考え、集団活動に積極的に参加し、協力して生活を向上させようとする態度を身につける

国「みんなで話し合って考えよう」 特「ボランティアって何だろう」「ボランティアってだれのため」(ひ高)
家「自分や家族の生活を支える仕事」 〈地域の人々との協力・助け合い〉 保「心の動きと体の変化」

○他者の思いや願いに共感し、共に考えようとする態度を身につける

道「じろりじろり」(な中)「しばてん」(な高)

○互いに協力して生活の中にある課題を解決しようとする

国「相手に分かるように考えを伝え合おう」〈祖母とリストラ〉(な高)
道「みんなのために流すあせはとても美しい」(心中)

○さまざまな情報から正しい情報を読みとる力(メディア・リテラシー)を身につける

国「インターネットと学習」 特「迷信や言い習わしを調べてみよう」(な高)
社「わたしたちの暮らしと情報」〈エビはどうやって食卓にやってくる?〉(な高)

○他者の意見を聴き、自分の意見や考えを整理し、他者に正しく伝える技能を身につける

特「ロールプレイやフォトランゲージ等の手法を通して」〈わたしは建築家〉(な中)
道「友だちと話をするとき」(な中)「どのように伝えればいいのか?」(な高)



自分の意見や考えを伝えよう

○ものごとを話し合って解決する技能を身につける

特「これで、いいのかな」(な中)

○基本的人権の具体的内容を理解し、人権侵害の具体的事例について学ぶ

社<日本国憲法と基本的人権>
道・特<近畿統一応募用紙の学習を通して>
特「権利と責任」(中学な)

○人権確立の過程や人権についての考え方の歩みを理解するとともに、国内外の人権規約等について学ぶ

社<人権思想と人権獲得の歴史、新しい人権>
「すべての子どもに教育の機会均等を」
「部落の歴史と解放への歩み」「人権と共生の時代へ」(中学な)

○世界にあるさまざまな人権問題について学習する

社「ヤコブの物語」(高校な) 道「自由への長い道」(中学な)
外<民族問題・人種差別に関する教材を通して>

○同和問題、障害者問題、在日外国人問題等のさまざまな人権問題について

国「ユニバーサルな心を目指して」「補助犬とともに」
社<奴婢～竜安寺・銀閣寺の石庭～身分制度～解体新書～解放令～水平社～同対審答申>
<男女共生、アイヌの人々、ハンセン病患者、外国人、同和問題> <水平社博物館見学>
数<人にやさしい町づくりなどに数学的な考え方や技能を生かす>
美<使用する人の気持ちから発想してデザインしよう>
特・道・総<福祉施設等での体験学習> <養護学校との交流> 外<サインランゲージ等の教材を通して>
保<生活習慣病や伝染病について> 総<人権史跡のフィールドワークを通して>
道「手」「イルム」「トイレの話」「『字がわからない』ってどんなこと?」(中学な)

○さまざまな因習や偏見等について学習し、人権問題とのかかわりを考える

社<地域社会とわたしたち> 特「ふたつの立場」(高校な) 外<異文化理解、国際理解を深める教材を通して>

○反戦平和や地球環境の問題についてグローバルに考える

国「大人になれなかった弟たちに」「平和を築く」 社「わたしの見た日本のゴミ問題」(高校な)
理<科学技術と人間> <自然と人間> 美<自然との共生の視点から表現しよう>
技<栽培と生活> <効率のよいエネルギー> 社・音「オキナワからアイヌへ」「花」(中学な)
外<反戦平和及び環境に関する教材を通して> 保<健康と環境>

○「老い」や「生と死」、情報化にともなう人権課題等について考える

保<救命救急の実習体験> <健康な生活と病気の予防> 社・技<情報化社会と人権>
道「『今、ここにある命』を生きる」(響き中)

○人権侵害や人権問題の克服に向けて主体的にかかわろうとする

外<コミュニケーションツールとしての英語の習得> 社・特「一人ひとりの生き方を豊かなものに」(高校な)

○ボランティア活動等のさまざまな活動を通し、より多くの人と豊かにつながり、人権尊重の社会づくりにかかわろうとする態度を身につける

家<子どもの成長・地域の人々とのかかわり> 総・家<保育体験学習> 総「ホームヘルパーの仕事」(中学な)
特<地域等の清掃活動> 道・特・総「支え合い、共に生きる」(響き中) 道「考えよう『働く』ということ」(心)

○自分の権利を主張する力をつけるとともに、自分の役割や責任を果たそうとする態度を身につける

社・家・総・特<子どもの権利条約> 道「いろいろな立場があり考えがある」「縛られたくないのはみんな同じ」(心)

○人権問題克服の課題を総合的にとらえ、自らの生き方につなごうとする態度を身につける

特「『ちがう』こと、バンザイ」(中学な)「いじめ～支援編・目撃編～」「明るい(?)悩みの相談室」(高校な)
総・特・道「友達と輪」(響き中)

○地域や社会に積極的に働きかける力と技能を身につける

総<職場体験学習> <就職や結婚問題等のロールプレイやシミュレーション>
道「ある日の午後」(中学な) 特「きつとつながる」(高校な)
総・道「共に築く豊かな社会」(響き中)

○情報を活用する力とともに、物事を多面的にとらえる技能を身につける

国「メディア社会を生きる」 技<情報と生活>
特「オークション」「伝える」(中学な)
「欲しいものと必要なもの」「『日本』でどんな国?」(高校な)



手話コース



保育体験

人権教育学習プログラムの展開例

学習を進めるにあたっては、「個別的な視点からのアプローチ」と「普遍的な視点からのアプローチ」の双方向からの取組を大切にしたいものです。また、児童生徒の発達段階や状況等に配慮し、すべての教科等を通じて系統的・横断的・発展的に、多様な手法や機会を整えて取り組むことがより効果的です。

○『法の下での平等、個人の尊重といった普遍的な視点からのアプローチ』の一例



○『それぞれの差別問題の解決という個別的な視点からのアプローチ』の一例

